



継ぎ目に 隙なし

その④

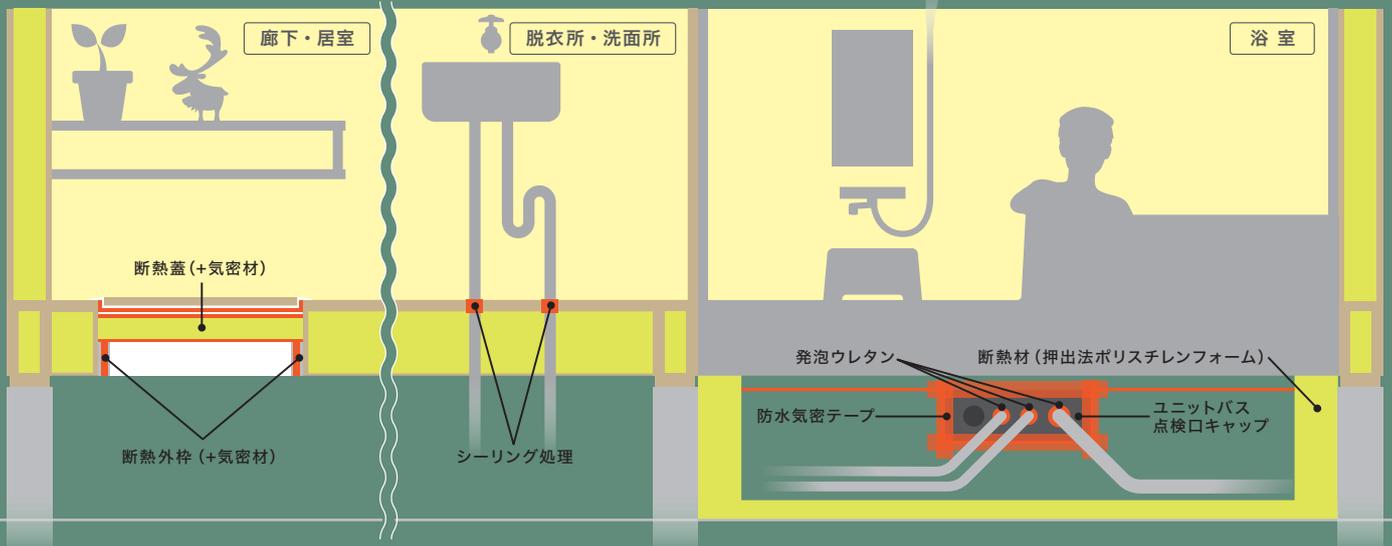
今回は前号(185号)の「外壁の穴への気密対策」に続き、室内の快適な温熱環境に大きく影響する、床下や床を貫通する穴への気密・断熱対策をご紹介します。注目するのは、1階のユニットバスの床下についてです。浴槽は、またぎやすいため、スウェーデンハウスでは、他の居室部分とは違う気密・断熱施工を行っています。

ユニットバスの下部

だけは、凹の形状で基礎部分と接する状態となります。そのため、この床下も室内空間の一つとして考え、基礎内部をぐるりと断熱材

床下・床の穴への気密・断熱対策で、家全体の温度を一定にキープ

断熱材 気密処理



床下点検口の蓋

階段下収納など、目に触れにくい場所の床に設置される、定期点検やメンテナンス時に使用する床下点検口。断熱材を内蔵し、周囲に気密材を付けた、気密・断熱型の蓋を採用しています。

床を貫通する配管

床を貫通する給排水管の床板部分にペースト状のシーリング剤を使って気密性を確保します。一般的なスウェーデンハウスで、10ヵ所以上ある、全ての配管に気密施工を行っています。

基礎部分のユニットバス点検口

ユニットバス点検口は縦20×横50cmほどの穴に、オリジナルのフランジ付き点検口キャップをはめ込みます。スポンジ状の本体部分の穴にユニットバスの給水と給湯の配管を通し、フランジ部分を防水気密テープで留め付けます。さらに配管周りを発泡ウレタンで塞ぎ、断熱性、気密性、防水性をしっかり確保しています。床下点検口用キャップ 特許番号 3427008号

ユニットバス点検口

(押出法ポリスチレンフォーム)で覆う、基礎断熱処理を施します。床下からの外気(冷氣・暖気)の影響を遮断して、浴室も室内と同じように快適な温度を維持します。

ユニットバスの基礎部分には、配管を通す

があります。一般的には気密の配慮がされない部分ですが、スウェーデンハウスでは、オリジナルの「ユニットバス点検口キャップ」を使用して入念に塞ぎ、気密性能を確保します(図参照)。というのも居室部分の床下は、風通しを良くする基礎パッキン施工で、湿気を逃がすため常に換気を行っています。点検口部分の気密対策が取れていないと隙間から冷氣や熱気が入り込み、せっかくの基礎断熱が有効に働かず、浴室を中心にして室内に温度差が広がる一因にもなってしまいますからです。

温度差のない

高い性能が発揮されるのです。ずっと快適に健康に過ごしてほしい、スウェーデンハウスの願いです。